

(四) 萬念寺 (福山市神辺町川北)

萬念寺は山号を佛見山と号する浄土宗の寺院である。萬念寺は菅波氏の旦那寺である。茶山の先妻「爲」のお墓もあり、親族の法要なども萬念寺で行っている。

一 萬念寺の縁起 「福山市神辺歴史民族資料館ホームページ 神辺の寺院」によれば

元龜年間(一五七〇〜一五七三年)の草創といわれる「萬念寺」の前身「見佛山(けんぶつざん)大念寺(だいねんじ)」は、元和五(一六一九)年、福山藩主・水野勝成が福山に拠点に移すと、それに伴い城下の寺町(てらまち)へと移されました。そして、跡地には品治郡今岡(ほんじぐんいまおか)現福山市駅家町今岡)の萬念寺谷から廢寺であった「萬念寺」を移し、山号を「佛見山」にしたといわれています。その後、延享四(一七四七)年、七世の時に本堂が再建され、さらに安政年間(一八五四〜一八五九年)十一世の時に修繕、そして平成四(一九九二)年に再び建て替えが行われました。



ここには太閤(たいこう)豊臣秀吉)が立ち寄った伝承があり、菅茶山編纂「福山志料」や「西備名区(せいびめいく)などの古記録には、太閤秀吉が九州へ向かう途中ここへ立ち寄り、呂紀(りよき)明の花鳥画家)が画いた鴛鴦(おしどり)の軸を二幅賜え、その後「大念寺」の城下移転に伴い移されたことが記されています。江戸時代には神辺本陣の立ち退き所に指定され、文久三(一八六三)年には、筑前国黒田家一行総勢一〇五三人の内、「萬念寺」には五三人の付添衆が宿泊したとの記録があります。

「川北村御検地水帳」によれば、元禄十三(一七〇〇)年には、屋敷地一反三畝に隣接して計一反二畝の田畑を有していました。

福山志料には

佛見山浄土宗知恩院末寺開基年代シラス福山開城ノ後證譽上人此寺ヲ建ツ見佛山大念寺ト號スコレ其跡ナリムカシ豊臣太閤九州下向ノ時當寺へ輿ヲヨセラレ呂紀力蓮ニ鴛鴦ノ二幅ヲ賜ハル福山大念寺にアルト云寺ニ黒本尊ト云佛アリトモ紅葉山城内ニアリシヲ福島丹波退去ノ時ソノ聳ナル牢人畠山氏ニユツル畠山ヨリ又此ニオサムト云水野記山號村尾山トミュ寺内ニ石柱ノ地藏堂アリ戸田屋彌助由椿ト云者ノ女ノ墓ナリコノ由椿頗豪農ニテ奢ヲキハメテ嗣子彌助力代ニ落魄ス今ノ本陣ノ瓦ニ松皮菱ヲツケタルハソノ家ノ紋ナリ法樂寺の觀音堂西福寺ノ地藏堂ソノ外ニモ由椿力建タルモノ多カリシカ今コノ三ツノミノコル此等ハ年月近ク郷里同シケレハ歴然タルヘキ村中ニテモ知人ナシマシテ數百年前ノコトヲヤ往時茫々一慨スヘシ

とある。萬念寺も水野勝成の福山城築城による寺院大移動の結果、現在の地に移築してきた寺院であることがわかる。右資料に出る「畠山氏」が菅波家のルーツである。そこに記された「黒本尊」の由緒等の調査については今後の課題である、

江戸時代、寺院は大名の参勤交代時では、本陣に収容できなかった人達の宿としての役割があつ

たとされ、光蓮寺、西福寺、萬念寺などがそれにあたっていたとされる。当時、神辺宿²の本陣は東本陣（本莊屋菅波家）が主たる役割を担っていたと考えられる。西本陣（尾道屋菅波家）は、黒田家の宿泊場所を主とした本陣で、東本陣のサブ的な位置付けであったと考えられる。

二 茶山と萬念寺

「天明六年（一七八六）三月二十四日 拙齋・孝恂・東嶼と竜泉寺・萬念寺・西福寺に遊ぶ」という記録以外に茶山が萬念寺に遊んだという事を知らない。しかし、菅波氏の旦那寺で、また、茶山親族の法要等も萬念寺で行われており、度々訪れているはずである。しかし、萬念寺に関する詩についてはみることができない。

山門前に茶山の詩碑が建てられているので紹介する

「夏日雜詩」 十二首の内（三） 黄葉夕陽村舎詩 後編 卷八

垂楊闌繞古書樓 垂楊（すいよう） 闌繞（いじょう）す 古書樓（こしよろう）

遮断村聲事亦幽 村声（そんせい）を遮断して 事も亦（また）幽（ゆう）なり

知是隣房催會講 知る是（これ）隣房（りんぼう） 會講（かいこう）を催（もよお）す

亂條陰裏夜吹■ 亂條（らんじょう） 陰裏（いんり） 夜笛を吹く

闌饒 ぐるりと取り囲むこと。 書樓 ここでは書物を蔵する二階屋（廉塾のこと）。

隣房 隣の家。 會講 寄り合って相談すること 陰裏、日の当たらない所、日陰

■ ふえ（竹かんむりに秋）

（大意） しだれ柳が古い塾舎を取り囲み、村の物音を遮り絶ってすべての営みもまた静かである。隣の家では寄り合いがあるとみえ、風に乱れる柳の枝の陰のあたりで夜にあたって笛を吹く音が聞こえてくる

* 萬念寺山門前に立派な詩碑が建っている。しかし、この詩は内容からして廉塾で詠んだ詩であると思われる。



参考文献

菅茶山略年表

案茶山記念館

茶山詩話

菅茶山遺芳顕彰会

福山志料 復刻版

芸備郷土誌刊行会

黄葉夕陽村舎詩 復刻版

児島書店

神辺の寺院

福山市神辺歴史民族資料館ホームページ

菅茶山上・下

富士川英郎